

# 構造設計標準仕様

※修正箇所は下線を引くこと  
適用は ☒ 印を記入する

## 1. 建築物の構造内容

- # 1. 建築物の構造内容
- (1) 建築場所 沖縄県石垣市宇伊間川町250-7
- (2) 工事種別 ☐新築 ☐増築 ☐増改築 ☐改築
- (3) 構造種別 鉄筋コンクリート造
- ☐木造 (W) ☐補強コンクリートブロック造 (CB) ☐鉄骨造 (S)
- ☒鉄筋コンクリート造 (RC) ☐壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
- ☐鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) ☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
- ☐プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)
- (4) 階 数
- |     |    |   |    |     |    |   |
|-----|----|---|----|-----|----|---|
| 構 造 | 地下 | 階 | 地上 | 1 階 | 塔屋 | 階 |
| 棟 数 |    | 階 |    | 階   | 塔屋 | 階 |
- (5) 主要用途 生命
- (6) 屋上付属物
- ☐高架水槽 ☐キュービクル kN ☐広告塔 ☐煙 突
- (7) 特別な留意
- ☐エレベーター 人集 (マシンルーム) ロープ式 油圧式) リフト kN ☐ホイス kN
- ☐倉庫積載床用 kN ☐消火水槽 kN
- (8) 付帯工事
- ☐門扉 ☐擁壁 ☐軽軌道 ☐機械式駐車場 ☐ ☐
- (9) 増設計画 ☐有 ( ) ☐無
- (10) 構造計算ルート X方向ルート ( 1 ) Y方向ルート ( 1 )

## 2. 使用構造材料一覽表

- (1) コンクリート

選 用 箇 所	種 類	設計基準強度 F <sub>cd</sub> =N/mm <sup>2</sup>	品質管理強度 F <sub>cd</sub> =N/mm <sup>2</sup>	スパン 巾	備 考
普通コンクリート	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 15 <input checked="" type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 21	18-0=18	15	
大気・水素イオンコンクリート	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 21	21-0=21	15	
硫酸イオンコンクリート	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 21	18-0=18	15	
炭素・水素イオンコンクリート	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 27 <input type="checkbox"/> 30	24-3=21	15	水素イオンに該当する場合
柱・梁・壁	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 27 <input type="checkbox"/> 30	24-3=21	15	水素イオンに該当する場合
細骨材の種類	<input type="checkbox"/> 山砂 <input type="checkbox"/> 山砂	<input type="checkbox"/> 人工	<input type="checkbox"/>		
粗骨材の種類	<input type="checkbox"/> 砂利 <input type="checkbox"/> 砂利	<input type="checkbox"/> 人工	<input type="checkbox"/>		
水の成分	<input type="checkbox"/> 水道水 <input type="checkbox"/> 地下水	<input type="checkbox"/> 工業用水	<input type="checkbox"/>		
添加剤の種類	<input type="checkbox"/> A 減水剤 <input type="checkbox"/> 減水剤	<input type="checkbox"/> コンクリート増量剤	<input type="checkbox"/> 増-100(増量剤)		
呼び強度を規定する材料	<input checked="" type="checkbox"/> 28日 <input type="checkbox"/> 高性化剤	<input type="checkbox"/> 5日	<input type="checkbox"/>		

※普通コンクリートの選定を受ける期間に当てはまる場合は、品質基準強度-3(N/mm<sup>2</sup>)とする。※炭水化合物は、185kg/m<sup>3</sup>以下とする。

- | (3) 族 筋          |  | 種 類  | 径        | 使用箇所  | 継手工法 |
|------------------|--|--|----------|---|------|
| 異径筋              | <input checked="" type="checkbox"/> S D205 | D10~D16  | 縦筋一般     | <input checked="" type="checkbox"/> 圧入継手<br>D10~D16<br><br><input type="checkbox"/> 圧入圧接継手<br>D10~<br><br><input type="checkbox"/> 特殊継手 |      |
|                  | <input type="checkbox"/> S D245            | D18~   | 縦筋一般     |   |      |
|                  | <input type="checkbox"/> S D300            | D20~   | 縦筋一般     |   |      |
|                  | <input type="checkbox"/>                   |  |          |   |      |
| 高強度安心用縦筋筋        |  | <input checked="" type="checkbox"/> MR705 (SFR705) | K13(T13) |   |      |
| 丸 鋼              |  | <input type="checkbox"/> S R235                    |          |   | ( )  |
| 溶接金具 (JIS S 355) |  | <input type="checkbox"/> 溶 接                       |          |   |      |

- | (4) 鼓 音 |          |         |         | 使用箇所 | 取付形状 | 備 考 |       |       |
|---------|----------|---------|---------|------|------|-----|-------|-------|
| □S600   | □SM400   | □SN400A | □SN400B |      | □有   | □無  | □1/8F | □1/8F |
| □SN490B | □STK400  | □       |         |      | □有   | □無  | □1/8F | □1/8F |
| □BCR295 | □BCP235  | □       |         |      | □有   | □無  | □1/8F | □1/8F |
| □SM490C | □SNR400B | □SNR400 |         |      | □有   | □無  | □1/8F | □1/8F |
| □SSC400 | □        |         |         |      |      |     |       |       |

- (5) ポルト

○使用箇所の詳細については別添図表とする。

○高力ポルト								
○普通：F8T	○S10T		○認定品 (○M16、○M20、○M22、○M24)					
○中ポルト			高力ポルトすべり係数試験	○要	○否			
			高力ポルト導入係数試験	○要	○否			
○アールポルト	M							
○SS R400	M	L = mm	ナット (○シングル、○ダブル)					
○SS R400	M	L = mm	ナット (○シングル、○ダブル)					
○鋼付スタッドポルト	M	L = mm						
φ =	L =	mm	使用箇所 (○柱、○大梁、○小梁)					
φ =	L =	mm	使用箇所 (○柱、○大梁、○小梁)					

(6) 屋根、床、壁

○A 合板	壁厚	○スライド構法	ポルト止め構法	○ロッキング構法
○折板	H = 厚			
○鉄骨プレート	壁式			
○柱の端のみと床梁またはキャップ2点固定	2点固定	材質：フッ素加工バリウム鋼板	t = 0.4mm	
○ステンレスシーム溶接工法 (R35、○265)		材質：フッ素加工ステンレス	t = 0.4mm	

※1: 3kg まで荷重差

- ☒ 普通型棒

### 3. 地盤

- 1) 地盤調査資料と調査計画

☒有 ☒敷地内 ☐近隣)
 ☐無 (調査計画) ☐有 ☐無

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	有り		特約貫入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質調査			物理検査		
試験地 (支持層の確認)			平板載荷試験			適宜化判定		
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			PS 探層		

注: 上記表中の資料があるもの、調査計画があるものに○を記入する。

(2) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・柱の位置を明記すること) ※別紙による

深度 [m]	土質	N値	標準貫入試験
0	ヤ	0	10 20 30 40 50 60
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

S-09 による

○調査地盤

○位置図

○実測地盤、地盤及び深さについてのコメント

○孔内水位  
GL - m

○近接データの調査地盤と設計地盤とは約 m の距離がある

○備考

注: 地盤調査及び試験地の結果により、柱長、柱径、基礎基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

#### 4. 地業工事

- (1) 直接基礎 ☐ ベタ基礎 ☐ 布基礎 ☒ 独立基礎 試験掘 ☒ 有 ☐ 無  
深さ G L - 850 支特層 - 琉球石灰岩 長期許容支持力度 200kN/m<sup>2</sup> 載荷試験 ☒ 有 ☐ 無

- | (2) 杭基礎  |  | 支持層   |   |                      |  |
|--|--|---|---|----------------------|--|
| 材 種  | 材 料  | 施 工 法   | 備 考   |                      |  |
| <input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PRC<br><input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> 鋼<br><input type="checkbox"/> 鋼 <input type="checkbox"/> 管群杭<br><input type="checkbox"/> SC杭 | PRC <input type="checkbox"/> 1種 <input type="checkbox"/> 2種 <input type="checkbox"/> 3種 <input type="checkbox"/> 4種 <input type="checkbox"/> 5種<br>PHC <input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種<br>鋼材 <input type="checkbox"/> S400 <input type="checkbox"/> S440 <input type="checkbox"/> S460 <input type="checkbox"/> S500 | <input type="checkbox"/> 打ち込み・バードグリップ工法<br><input type="checkbox"/> 掘込み（セメントミルク工法）<br><input type="checkbox"/> パイパー・リーク工法（掘込み工法）<br><input type="checkbox"/> 又は他種工法 | PRC105  |                      |  |
| <input type="checkbox"/> 場所打ち<br>コンクリート杭   | コンクリート $F_c$<br>スラブラップ<br>主筋量 $\text{kg}/\text{m}^3$<br>鉄筋 主筋 $\text{SD}$<br>HOOP $\text{SD}$  | $\text{N}/\text{m}^2$<br>$\text{kg}/\text{m}^3$<br>$\text{SD}$<br>$\text{SD}$   | <input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 底流杭<br><input type="checkbox"/> パイプ・サucer・キュレーション<br><input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> リーニース<br><input type="checkbox"/> B・H <input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 鋼管杭 | 認定<br>第 〇 号<br>年 月 日 |  |

- 杭仕様 ☐ 施工計画書承認 ☐ 杭施工結果報告書  
 設置杭 ☐ 有・☐ 無 ☐ 打ち込み・☐ 載荷・☐ 引張試験等
- 本

- [illegible]

- ### (3) 地盤改良工事

- ☐ 淺層地盤改良工法
- ☐ 深層混合處理工法

## 5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

本標準仕様書及び鉄筋コンクリート構造配筋標準図はコンクリートの設計基準強度 ( $F_c$ ) が  $21\text{N/mm}^2$  以上、かつ、 $36\text{N/mm}^2$  以下に適用する。

- (1) **コンクリート**
- **コンクリートは JIS 規定工場の製品とし、施工に関しては、標準図面記載されている事項を JASS5 による。**
- **耐久設計基準強度  $F_{cd}$  一般舗 〇標準 〇長期**
- **セメントは、JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。**
- **調査計画は、工事開始前に工事監督者の承認を得ること。**
- **寒中、雪中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監督者の承認を得ること。**
- **フレッシュコンクリートの強度測定は、原則として工事現場（国土開発技術研究所セクターの技術指導による）測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定部の表示部と同一の箇所に撮影した写真（カラー）を併記し承認を得ること。**
- **測定結果の回収は、通常の寒中、1日1回とし、1回の検査における測定試料は、同一材料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。〔試験回数、公共施設工事検査仕様書（令和4年）による。〕**
- **構体コンクリートについて現場の圧縮強度試験（JASS T-603）は、現場中実生、又は採取断面から養生とし、採取は、打ち込み試体 2 個、打ち込み試体 1 個とする。**
- **打ち込み試体は 150 cm である場合は 150 cm 以下の、その端部 2 cm を取り除くことを標準とする。**
- **一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた 3 回の連続またはその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指定なき場合は、打ち込み位置にともなう下記 3 箇所のうち 1 箇所以上 3 箇所を用いる。**
- **ポンプ付コンクリートは、打ち込み位置にともなう下記 3 箇所にて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高はコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送にて打て、コンクリート圧送試体または、同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、ポンプ圧送中における打替時間間隔の限度は、外気温が 25℃ 以下の場合には 30 分以内、25℃ を超える場合は 60 分以内とする。**
- **養生方法は、20℃ 未満の環境中、低温乾燥養生または養生を用いて行い、数値および埋設物などの周辺空間の湿度の下限までコンクリートが乾燥される。密着なコンクリートを得られるようにする。**
- **コンクリートの打替養生は、レタフン、密着なコンクリート、ゴミなどを取り除き、新たに打ち込むコンクリートと一体化するように施す。**
- **打ち込み養生のコンクリートは、適度な養生しきき後に自然に乾燥、養生マニツまたは水養生による被覆乾燥・噴霧、養生養生の発泡などにより潤滑養生を行う。（期間を、JASS5 の表 8.1 を参照）**

- (2) 鉄筋
- 鉄筋は J I S G 31120 規格品を準拠とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、J A S S 5 による。
- 高強度歪み延伸鉄筋は、J I S G 31371 に規定される D 種 1 号適合品とする。
- 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さとは「鉄筋コンクリート構造設計標準図集 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造設計標準図集 (1) (2)」による。
- D 19 未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D 19 以上) をガス圧接とする場合は、日本建築学会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
- ガス圧接の抜き取り検査は、同一作業班が同日に施工した圧接箇所ごと (200 箇所を越えるときは、200 箇所ごと) に 1 回行い、1 回の試験結果は 5 以上とする。
- 外観検査は、☐ 有 ☐ 無 引張試験は、☐ 有 ☐ 無 超音波探傷試験は、☐ 有 ☐ 無
- 柱の芯筋 (H O O P) の加工方法は、☐ H 型 (方形) ☐ S 型 (溶接型) ☐ S 型 (スパイラル型) とする。
- コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要綱」第 4 条の試験機関で行うこと。
- 試験機関名 沖縄建設技術センター (那知事務登録)
- 代行者名
- 代行者とは、試験、検査に伴う業務を代行者のみを言う。

- 材料 合板厚 12mmを標準とする。
- 施工 JASS5による。

- |                 |                        | 寸 寸 板                  |                        | 支 柱                    |                        |                        |                        |      |
|-----------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------|
|                 |                        | 基礎、はり端、柱、壁             |                        | スラブ下、はり下               |                        | スラブ上、はり上               |                        |      |
|                 |                        | 基礎                     | スラブ上、はり上               | 基礎                     | スラブ上、はり上               | 基礎                     | スラブ上、はり上               |      |
| セメントの<br>種類     | 普通ポルト<br>ランドセメント<br>A種 | 普通ポルト<br>ランドセメント<br>A種 | 普通ポルト<br>ランドセメント<br>A種 | 普通ポルト<br>ランドセメント<br>A種 | 普通ポルト<br>ランドセメント<br>A種 | 普通ポルト<br>ランドセメント<br>A種 | 普通ポルト<br>ランドセメント<br>A種 |      |
| 存置期間の<br>経過     | シリカセメント<br>A種          | シリカセメント<br>A種          | シリカセメント<br>A種          | シリカセメント<br>A種          | シリカセメント<br>A種          | シリカセメント<br>A種          | シリカセメント<br>A種          |      |
| コンクリートの<br>強度   | 15℃以上<br>3日            | 2                      | 3                      | 4                      | 6                      | 8                      | 17                     | 28   |
|                 | 5℃~15℃<br>3日           | 5                      | 6                      | 10                     | 12                     | 25                     | 28                     | 28   |
|                 | 5℃未満                   | 5                      | 8                      | 10                     | 16                     | 15                     | 28                     | 28   |
| コンクリートの<br>圧縮強度 | 5.0 N/mm <sup>2</sup>  | 設計基準強度の50%             |                        |                        | 設計基準強度の                |                        |                        |      |
|                 |                        |                        |                        |                        | 85%                    |                        |                        | 100% |

- 注1) 片持り、庇、スパン8.0m以上のはりでは、工事監理者の指示による。  
注2) 大ぶりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりも原則として行わない。  
注3) 支柱の盛りかえは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。  
注4) 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い厚板、角材などは、これに代わるものを置く。  
注5) 支柱の盛りかえは、小ぶりばかりがわかってから、スラブを打つ、一晩に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。  
注6) 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

## 6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

- (1) 鉄骨工事は指示の限り限り下記による
- ☐ 日本建築学会「JASS6」鉄骨構造検査基準」「鉄骨工事技術指針」
- ☐ 社「日本鋼構造協会」建築鉄骨工事技術指針」
- ☐ 鉄骨製作管理技術者登録機構「実社会の鉄骨の正しい仕口のずれの検査・補強マニュアル」
- (2) 工事監理者の承認を必要とするもの
- ☐ 製作工場 ☐ 製作要領書 ☐ 作図 ☐ 鉄骨計画書
- ☐ 認定または登録工場（大臣指定）グレード以上 都道府 市 T 2 T3ランク）
- ☐ 材料検査証明書または試験成績書
- ☐ 図材 ☐ 高力ボルト ☐ 特殊ボルト ☐ 頂付スタッド
- ☐ 社内検査表 ☐ ☐
- (3) 工事監理者が行う検査項目
- （■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
- ☐ 運次検査 ☐ 組立・開先検査 ☐ 製品検査
- ☐ 溶接検査 ☐ 溶接工程検査、開閉検査、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、
- ☐ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針」工事現場施工指針」
- (5) 接合部の検査
- ☐ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査項目と検査数					備 考
		社内	第三者	工事監理者			
<input type="checkbox"/> 完全な入札の発注 (完全発注)	外販検査	%	%	%	%	%	平成19年度建設省令第146号(第二)第二号(表)第12号 平成19年度建設省令第146号(表)第12号(表)第12号 建設省令第146号(表)第12号(表)第12号
<input type="checkbox"/>	超音波検査	%	%	%	%	%	
	目視検査	%	%	%	%	%	
	マウロ試験、その他	%	%	%	%	%	
	外販検査	%	%	%	%	%	
<b>第三者検査機関名 (都知事登録番号)</b>							
(注) 本表の検査項目は、建築士、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行するために自ら行った検査を含む。							
(注) 本表の調査に必要と、必要となる建築物の調査に実施する。							

- (注) 本項規定については併せて別添第三号検査指針を必ず参照すること。併せて、経済産業省発表の100%行うこと  
(1) 検査対象となった不具合の発生しない場合は、事前に前記の検査基準を事前に第三者へ開示すること
- | □ 内蔵検査   | □ 破砕検査 | □ 示差圧差検査 |
|--|--------|----------|
| □ 高力ボルトは JIS B 1180の高力ボルトを標準とする。標準面の短径は異径など座金外径2倍以上の範囲でシャットプラスト、グライズグー掛け等を用いて除去した後、量尺で自動測定して検査した、赤及び黄である場合は、ただし、シャットプラスト、グリッププラストによる処理で表面長さが50S以上である場合は、赤及び黄は発生しないままでよい。 |        |          |
| □ 高力ボルトの締付けに使用する機器は必ず登録されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一度、二、三次繰り返す。<br>締付け後の検査は、各締付けに正確に適切な締付けが行われているか検査する。  |        |          |

- (6) 防錆塗装
- ☐ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めのペイントは、☐ JIS K 5621、☐ JIS K 5625、☐ を使用して、4つ重2回塗りを経るとが、実状に応じ決定すること。
- ☐ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

- (7) 耐火被覆の材料

- ## 7. 設備関係
- ㊦ 特記以外の染毒通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
  - ㊦ 設備通孔の染毒及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
  - ㊦ 床スラブ内に設備配管等を通込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の開口部を管の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
- ☐ 第129条の2第4の1項
  - ☐ 第129条の2第4の2項
  - ☐ 第129条の2第4の3項

## 8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を撮影保管すること。

伊良部正人、大浜雄樹、野底賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事(その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カニンニク250-7	図面番号	牛舎・構造設計標準仕様
発注機関	公益財団法人 沖縄県農畜振興公社	縮 尺	NO SCALE
		図面番号	S — 01
摘 要		投 入 名 称	有限会社 朝吹設計事務所
		資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
		登 録 番 号	1級建築士 第 114962 号
			登録番号 第 133-1792 号
		作 者 所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一  
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2  
一級建築士 第 141385号  
構造設計一級建築士 第 9036号



## 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

## 各部配筋 参考図

各部配筋参考図は、寸法の統一による設計の質の確保及び能率の向上並びに積算及び施工における業務の簡素化を図るものとして、各部配筋を特記する際に必要な事項を参考図として示すものである。  
なお、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）５章において特記することとしている各部配筋は、構造計算等に基づき適切に特記する必要がある。

## １節 基礎及び基礎梁の配筋

- １．１ 直接基礎の配筋 ※S-06(2)参照
- １．２ 基礎接合部の配筋 ※S-06(2)参照
- １．３ 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

【※】梁主筋の柱内定着長は、[S-06.2]による。

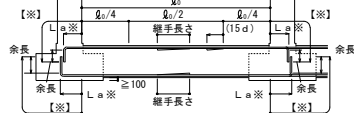
## (a) 一般事項

- (１) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。
- (２) 梁筋を柱内に定着する場合は、3.1(a)(2)による。



図1.4 梁筋の基礎梁内への定着

## (b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、3.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
※L aの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

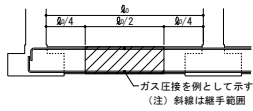
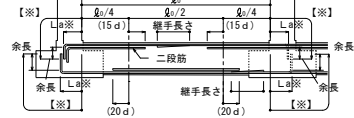


図1.5 主筋の継手、定着及び余長（その１）

## (c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、3.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
※L aの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

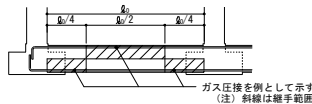
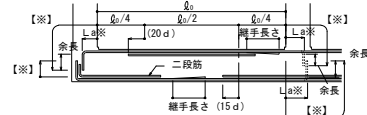


図1.6 主筋の継手、定着及び余長（その２）

## (d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、3.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
※L aの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

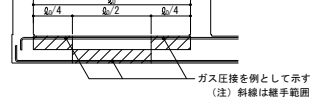


図1.7 主筋の継手、定着及び余長（その３）

## １．４ 基礎梁のあばら筋

あばら筋組立の形及びフックの位置は、3.2(a)による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図1.8によることができる。

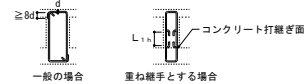


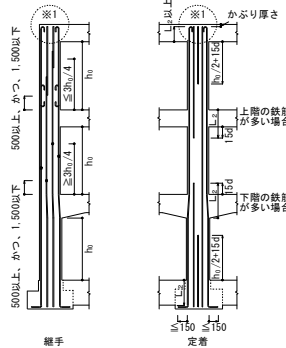
図1.8 あばら筋組立の形及びフックの位置

## ２節 柱の配筋

## ２．１ 柱主筋の継手、定着及び余長

## (a) 一般事項

- (１) 継手の中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3h/4（hは柱の内法高さ）以下とする。
- (２) 継手、定着及び余長は図2.1による。ただし、柱頭定着長さL2を確保できない場合は、構造図による。



- (注) 1. 柱の隅隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上端の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2. 隣り合う継手の位置は、(表3)による。
3. 継手及び定着は、すべての隅に適用できる。

図2.1 柱主筋の継手、定着及び余長

※1. 柱頭部主筋の納まりは、[S-06.3.1]および柱リストによる。

## ２．２ 帯筋組立の形及び割付け

- (a) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による。
- (b) 帯筋組立の形は図2.2により、適用は構造図による。

- (１) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
- (２) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
- (３) S P形において、柱頭及び注目の場合は、1.5巻以上の添巻きを行う。

## (c) フック及び継手の位置は交互とする。

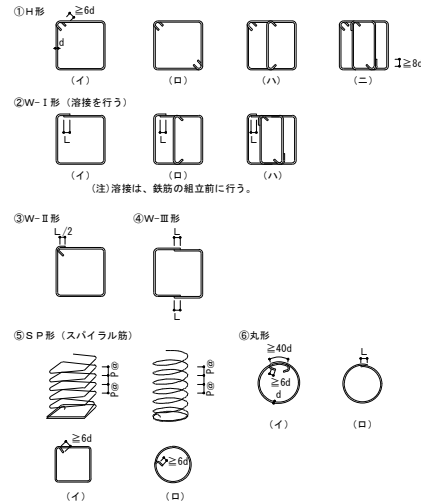
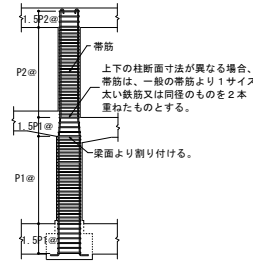


図2.2 帯筋組立の形

## (d) 帯筋の割付けは、図2.3とし、それ以外の場合は構造図による。



- (注) 1. 図示のない事項については、一般の場合に同じ。
2. 柱に取り付け梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1@又は1.5P2@とする範囲は、その柱に取り付けすべての梁を考慮して適用する。  
なお、P1@、P2@は、特記された帯筋の間隔を示す。

図2.3 帯筋の割付け

## ２．３ 柱の打増し部 ※S-06(4)参照

## ３節 梁の配筋

## ３．１ 大梁（5.1基礎梁以外の大梁に限る）主筋の継手、定着及び余長

【※】梁主筋の柱内定着長は、[S-06.2]による。

## (a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- (１) 梁主筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が同数の時は、柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図3.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。



図3.1 梁主筋の案内定着

- (２) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。  
なお、定着の方法は、S-02.4(a)(3)による。

上端筋：曲げ降ろす。  
下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。  
下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。

- (３) 段違い梁は、図3.2による。

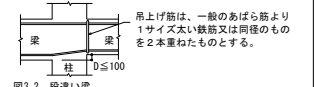
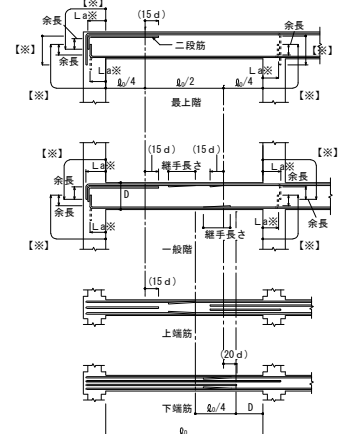


図3.2 段違い梁

- (４) 継手中心位置は、次による。

上端筋：中央  $\frac{h}{2}$  以内  
下端筋：柱面よりせいで（D）以上  $\frac{h}{4}$  を加えた範囲以内

## (b) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. フック印は、継手及び余長を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
※L aの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

図3.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

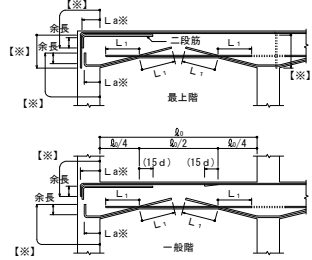
伊良部正人、大浜雄樹、野底賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事(その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	牛舎・柱筋コンクリート構造配筋標準図(2)
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	NOSCALE
		図面番号	S-03
備 要	設 名 称	有限会社 朝吹設計事務所	
	計 資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎	
	登録番号	1級建築士 第 114962 号	
	書 所在地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32	

有限会社 長崎総合設計 長崎 安一  
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号  
一級建築士 第 141385号  
構造設計一級建築士 第 9036号

## 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)

(c) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。  
2. 印は、継手及び余長を示す。  
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、.....のように引き通すことができる。  
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
※Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

図3.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

## 3.2 あばら筋（1.4基礎梁のあばら筋以外に限る）の組立の形及び割付け等

(a) あばら筋組立の形及びフックの位置

- (1) 形は、図3.5(イ)とする。ただし、L形梁の場合は(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。  
(2) フックの位置  
(イ) (イ)の場合は、交互とする。  
(ロ) (ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。  
(ハ) (ハ)の場合は、スラブの付く側を90°折曲げとする。

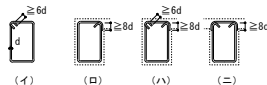
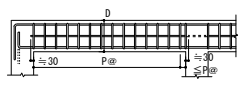


図3.5 あばら筋組立の形

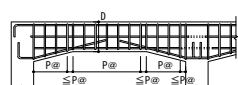
(b) あばら筋の割付け

(1) 間隔が一樣でハンチのない場合



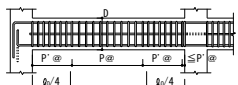
- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。  
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。  
図3.6 あばら筋の割付け（その1）

(2) 間隔が一樣でハンチがある場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。  
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。  
図3.7 あばら筋の割付け（その2）

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。  
2. 図中P@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。  
図3.8 あばら筋の割付け（その3）

(c) 腹筋及び幅止筋

- (1) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。  
(2) 幅止筋及び受け用幅止筋は、D10～1,000@程度とする。

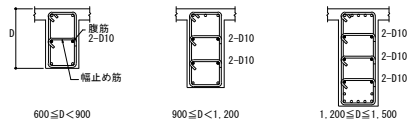
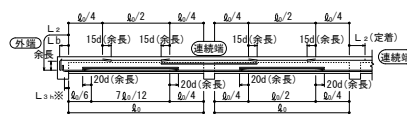


図3.9 腹筋及び幅止筋

## 3.3 梁の打増し補強 ※S-06(4)参照

## 3.4 小梁主筋の継手、定着及び余長

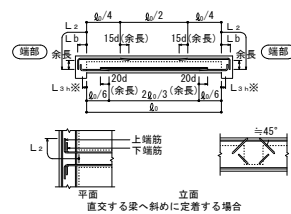
(a) 連続小梁の場合



- (注) 1. 印は、余長位置を示す。  
2. 図示のない事項は、1.3及びU3.1に準ずる。  
※Lsを確保できない場合は、(S-02、4 (e) (3))によることができる。

図3.11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

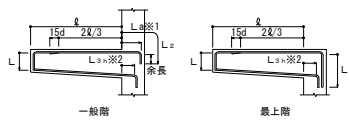
(b) 単独小梁の場合



- (注) 1. 印は、余長位置を示す。  
2. 図示のない事項は、1.3及びU3.1に準ずる。  
※Lsを確保できない場合は、(S-02、4 (e) (3))によることができる。  
図3.12 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

## 3.5 片持梁主筋の継手、定着及び余長

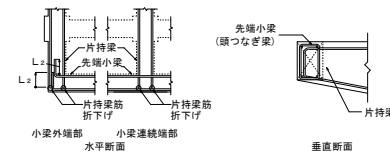
(a) 先端に小梁のない場合



- (注) 1. 印は、余長位置を示す。  
2. 先端の折曲げの長さLは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。  
3. 図示のない事項は、3.11による。  
※1. Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。  
※2. Lsを確保できない場合は、(S-02、4 (e) (3))によることができる。

図3.13 片持梁主筋の定着及び余長

(b) 先端に小梁がある場合



- (注) 1. 図示のない事項は、(a)による。  
2. 先端小梁先端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。  
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図3.14 片持梁主筋の定着

## 4節 壁及びその他の配筋

## 4.1 壁の配筋

(a) 壁の基準配筋は構造図による。

## 4.2 壁の継手及び定着

(a) 一般事項

- (1) 壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、重ね継手長さをL1、定着長さをL2とする。  
(2) 幅止筋は、縦横ともD10～1,000@程度とする。  
(3) 打増し部分に、壁及びスラブ筋等が取り付く場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。  
(注) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

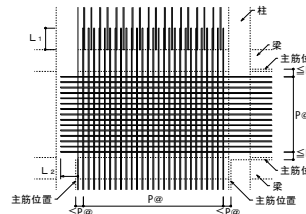


図4.1 壁の配筋

## 4.3 壁の交差部及び端部の配筋

(a) 壁の交差部及び端部の配筋

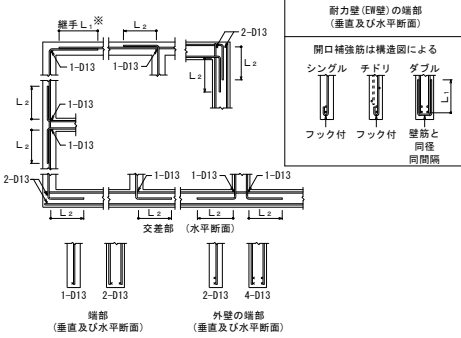


図4.2 壁の交差部及び端部の配筋

## 4.4 壁の開口部補強

- (a) 壁の開口部の補強筋は、構造図による。  
(b) 壁開口部補強筋の定着長さは図4.3による。  
(c) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

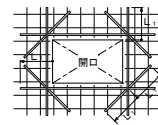


図4.3 壁開口部補強筋の定着長さ

## 4.5 壁の打増し補強

壁の打増し補強は、構造図による。

## 4.6 パラベット

(a) コンクリート厚さ、縦筋、横筋の径及び間隔は構造図による。

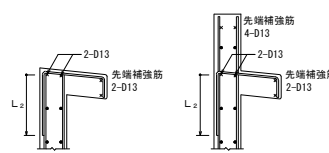


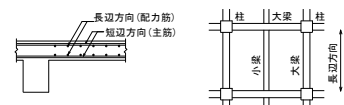
図4.5 パラベットの配筋

## 5節 スラブの配筋

## 5.1 スラブの配筋

(a) 一般事項

- (1) 土間スラブ下の移利地床厚さ及び格コンクリート床厚さは、構造図による。  
(2) 土間コンクリート補強筋の配筋及びコンクリート厚さは、構造図による。  
(b) スラブの基準配筋は図5.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



- (注) 1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。  
2. 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。  
図5.1 スラブの配筋

## 5.2 スラブ筋の定着及び受け筋

(a) 定着長さ及び受け筋は、図5.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図5.3により梁内に定着する。

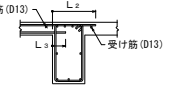


図5.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その1）

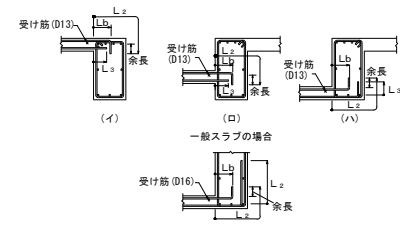


図5.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その2）

## 5.3 片持スラブの基準配筋

(a) 片持スラブの基準配筋（CS形）は、図5.4及び図5.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

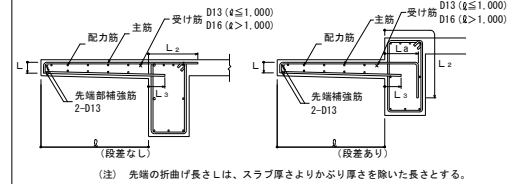
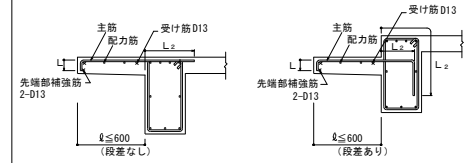


図5.4 片持スラブの配筋（ℓ&gt;600の場合）



## 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（４）

## 5.4 片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋 ※S-07(10)参照

## 5.5 スラブの開口部の補強

- (a) スラブ開口部の補強は構造図による。
- (1) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、図5.7により、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13(≧2L1)シングルを上下筋の内側に配筋する。
- (2) スラブの開口の最大径が開口方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

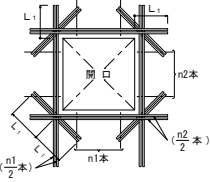


図5.7 スラブ開口部の補強配筋

## 5.6 出隅部及び入隅部の補強

- (a) 屋根スラブの出隅及び入隅部
- 屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図5.8により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

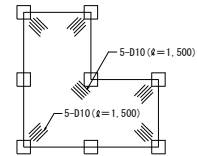


図5.8 出隅及び入隅部の補強配筋

## (b) 片持スラブの出隅部

- (1) 補強の配筋は構造図により、配筋方法は、図5.9による。
- (2) 出隅受け部分（図5.9の斜線部分）の補強筋は構造図による。

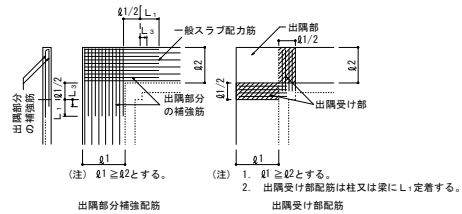


図5.9 片持スラブ出隅部の補強配筋

## 5.7 スラブの打継ぎ補強等 ※S-07(5)参照

## 5.8 段差のあるスラブの補強 ※S-07(8)参照

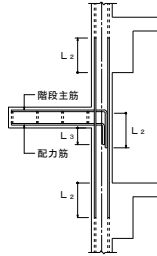
## 6節 階段の配筋

## 6.1 片持スラブ形階段の配筋

- (a) 片持スラブ形階段の基準配筋は、表6.1及び図6.1により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表6.1 片持スラブ形階段の基準配筋

配筋図	
配筋図	



- (注) 1. 片持スラブ形階段を受ける壁配筋は、構造図による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、≧S-02、表4のLsとする。

図6.1 片持スラブ形階段の定着

## 6.2 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

- (a) 二辺固定スラブ形階段の基準配筋は、図6.2及び図6.3により、寸法及び配筋種別は構造図による。

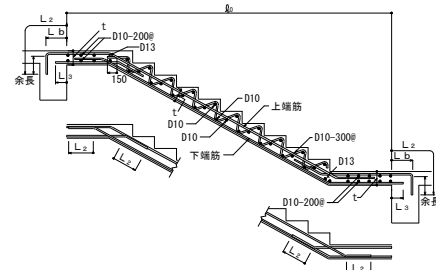


図6.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)

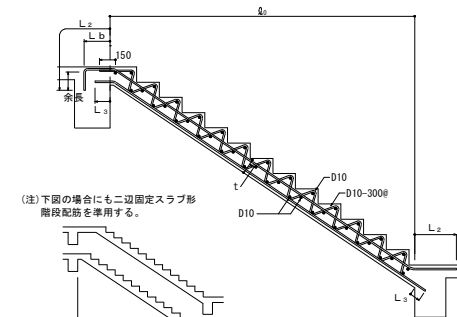


図6.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

## 7節 梁貫通孔及びその他の配筋

## 7.1 梁貫通孔の配筋

- (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図7.1による。
- (2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- (3) 孔の上下方向の位置は梁せいの中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3(Dは梁せいの)の範囲には設けてはならない。
- (4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- (5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図2.1による。
- (8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のもの(特殊な開口)で鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。
- (9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
- なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (11) 溶接金網の割付け地点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

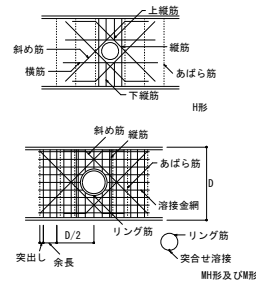


図7.1 梁貫通孔補強筋の名称等

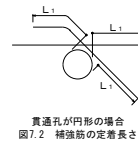


図7.2 補強筋の定着長さ

## 7.2 梁貫通孔の補強形式

梁貫通孔の補強は、特記なき既製品によるものとし、表7.1による場合は、監理者と協議して配筋種別を決定すること。

- (a) 梁貫通孔の補強形式は表7.1により、配筋種別は構造図による。

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	なし	なし	なし	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	なし	なし	なし	

(注) ..... は、一般部分のあばら筋を示す。

## 7.3 コンクリートブロック帳壁との取合い

## (a) 控壁の配筋

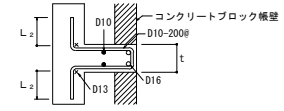


図7.3 控壁の配筋(水平、垂直とも)

## (b) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強

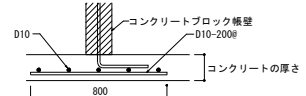


図7.4 壁付き土間コンクリートの補強配筋

伊良部正人、大浜雄樹、野底賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事(その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	牛舎・養豚コンクリート構造配筋標準図(4)
縮 尺			NOSCALE
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	図面番号	S— 05
構 要	設 計 者	名 称	有限会社 朝吹設計事務所
		資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
		登録番号	1級建築士 第 114962 号 登録番号 第 133-1792 号
		所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32

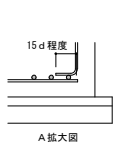
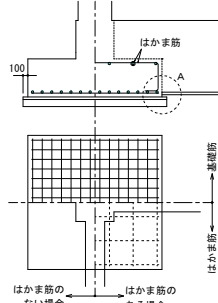
有限会社 長崎総合設計 長崎 安一  
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号  
一級建築士 第 141385号  
構造設計一級建築士 第 9036号

## 雑配筋標準図（１）

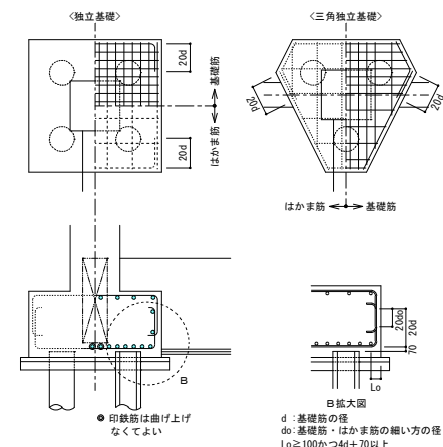
### 1. 基礎配筋

#### (a) 独立基礎

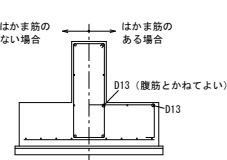
##### ① 直接基礎



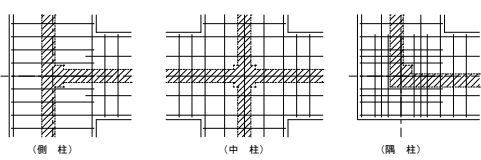
##### ② 杭基礎



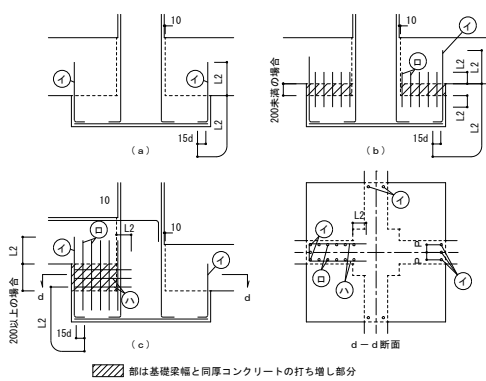
#### (b) 連続基礎



##### ・交差部のベース筋



### 1. 2. 基礎と基礎梁の接合

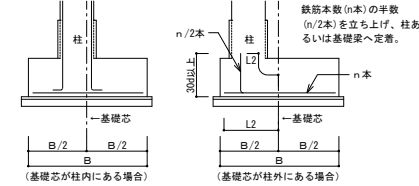


補強筋：基礎と基礎梁を一体するために補強する。その詳細は設計図書に特記する。  
(a) では ② 鉄筋は一般に基礎梁の幅に応じて 2-4-D16 とする。  
(b) では ② 鉄筋は一般に基礎梁の幅に応じて 2-4-D16 とする。  
(c) ② 鉄筋は基礎梁のあばら筋と同径・同間隔に配筋する。  
(c) ② ③ ④ ⑤ の各鉄筋量は設計図書に特記する。特記なき下表による。

表. 打増し部の補強筋			
梁幅	$b \leq 300$	$300 < b \leq 400$	$b > 400$
㊦ 配筋	2-D16	3-D16	D16. $P \leq 150\text{mm}$
㊧ 配筋	基礎梁のあばら筋と同径・同間隔とする。		
㊨ 配筋	D13@200		

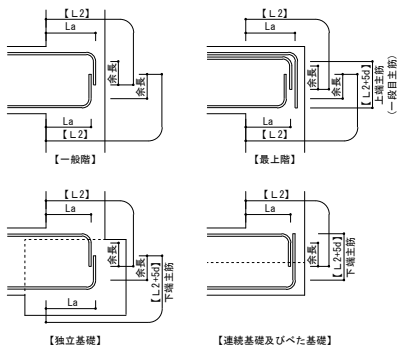
### 1. 3. 偏心基礎

#### ・一般に準ずる



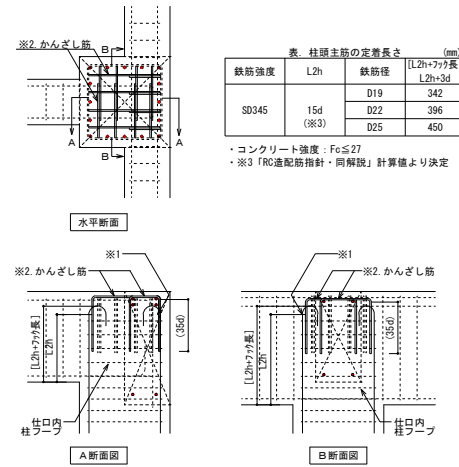
### 2. 梁主筋の柱内折曲び定着長さ

- 特記なき梁主筋の柱内折曲び定着長さは、【L2】d以上とする。
- 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLaは、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。



### 3. 1. 柱頭(最上階)の配筋

- 柱頭部主筋を直結定着とした場合の納まり  
(1) 一般納まり

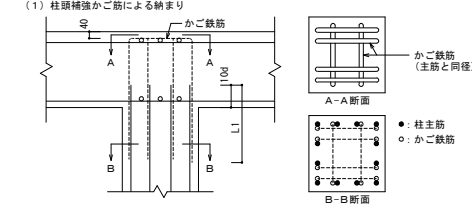


鉄筋強度	L2h	鉄筋径	[L2h+7d]長	[L2h+5d]長
SD345	15d	D19	342	
	(※3)	D22	396	
		D25	450	

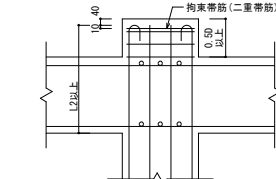
・コンクリート強度：F<sub>o</sub> ≤ 27  
・※3「RC造配筋指針・同解説」計算値より決定

※1 柱頭主筋は全数フック付きて定着長さ(L2h)を確保し、梁上端筋の下側まで延長すること。  
※2 かんざし筋は、あばら筋と同径×200以下とする。

- 柱頭部主筋の定着長が不足した場合の納まり  
(1) 柱頭補強かご筋による納まり



- 柱を突出させた場合の納まり



【注】拘束帯筋は梁上端部の上に設ける帯筋で、柱頭部の帯筋と同径かつD13以上とする。

### 3. 2. 接合部(一般階)の配筋

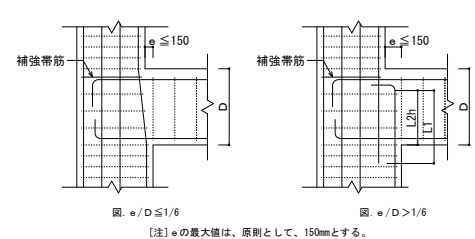


図 e/D ≤ 1/6

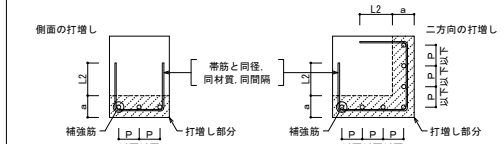
図 e/D > 1/6

【注】eの最大値は、原則として、150mmとする。

### 4. 柱梁の打増し補強

・打増し寸法が（70mm）未満の場合、補強は不要とする。

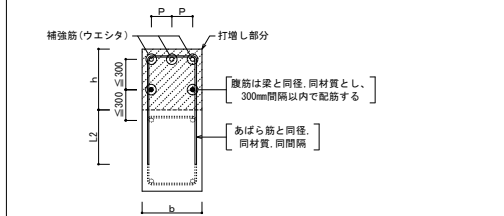
- 柱の打増し補強は、下図、下表による。下表を超える打増しの場合は、特記による。  
なお、梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



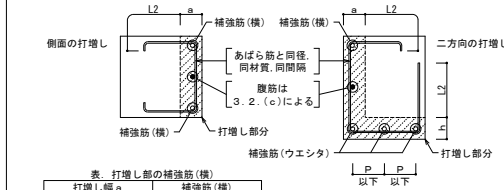
打増し幅 a	補強筋
70mm ≤ a ≤ 200mm	P ≤ 250mm -D16
200mm < a ≤ 300mm	P ≤ 200mm -D※

※は、柱主筋の1サイズ下の径とする。

- 梁の打増し補強は、下図、下表による。下表を超える打増しの場合は、特記による。  
なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。  
(1) 梁上端の打増し補強(梁下端の打増しも同じ配筋要する)



- 梁側面、二方向の打増し補強

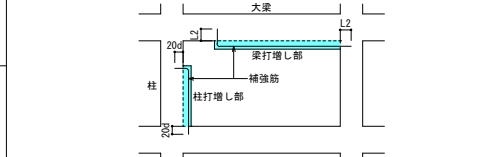


打増し幅 a	補強筋(横)
70mm ≤ a ≤ 200mm	1-D16
200mm < a ≤ 300mm	2-D※

※は、梁主筋の1サイズ下の径とする。

打増し高 h	補強筋(ウエント)
70mm ≤ h ≤ 200mm	2-D16
200mm < h ≤ 300mm	2-D※

- 打増し部補強筋の定着長さ



伊良部正人、大浜雄樹、野底賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事(その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カニン250-7	図面名称	牛倉：雑配筋標準図(1)
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	NOSCALE
図面番号	S-06	図面番号	S-06
設 名 称	有限会社 朝吹設計事務所	資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
計 登 録 番 号	1級建築士 第 114962 号	登録番号	登録番号 第 133-1782 号
者 所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32	者 所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32

有限会社 長崎総合設計 長崎 安一  
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号  
一級建築士 第 141385号  
構造設計一級建築士 第 9036号



## 雑配筋標準図（2）

### 5. スラブの打継ぎ補強等

- a) 土間スラブの打継ぎ補強  
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

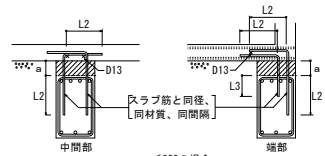


図9.10 打継ぎ補強配筋

- b) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋  
土間コンクリートの補強筋は、構造図による。なお、基礎梁との接合部は図9.11による。

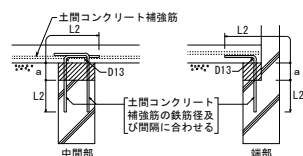


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

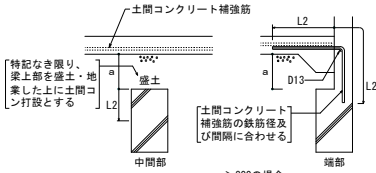
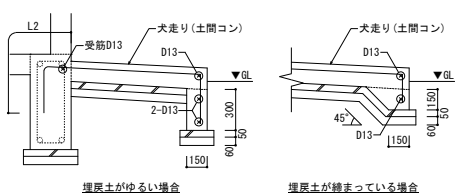


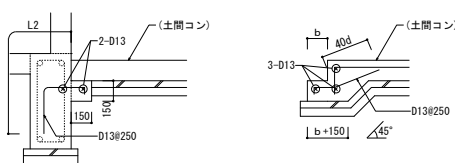
図9.12 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

### 6. 犬走り等スラブ配筋

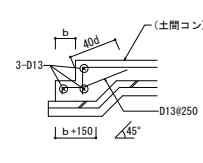
- a) 犬走り ※土間コン配筋は、構造図による。



- b) 土間スラブ受け



- c) スラブ立下り



### 7. 土間補強

- a) 土間コンクリートと横壁との取り合い  
1) RC及びCB横壁と土間コンクリートの取り合いは、下図による。  
2) 壁厚が150mmを超える場合、特記による。

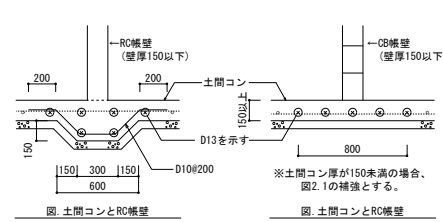


図 土間コンとRC横壁

- b) 登場ビッド土間配筋図  
1) 登場下のスラブ厚は、土間コンまたは土間スラブと同厚とする。

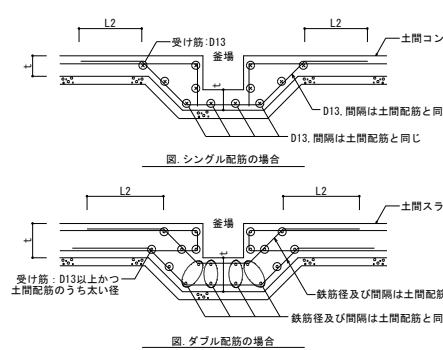
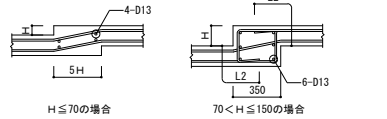


図 シングル配筋の場合

図 ダブル配筋の場合

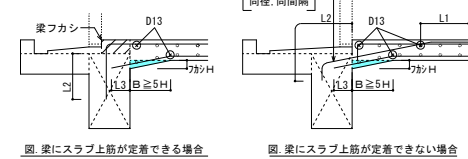
### 8. 段差のあるスラブ・小梁補強

- a) 段差のあるスラブの補強配筋



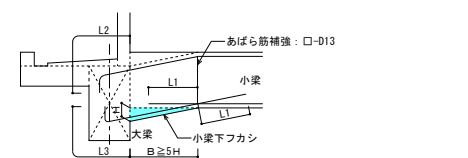
- b) スラブフカシ配筋

- 1) フカシ形状は構造図による。  
2) 特記なきフカシ幅Bは、5H以上とする。



- c) 段差のある小梁配筋

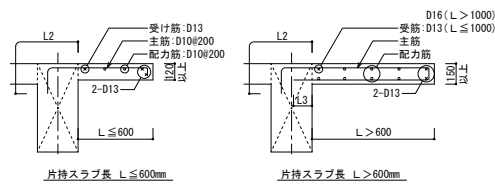
- 1) フカシ形状は構造図による。  
2) 特記なきフカシ幅Bは、5H以上とする。



### 9. 片持ちスラブ配筋

- a) 片持ちスラブ配筋

- 1) 特記なき片持ちスラブの基準断面および配筋は、下図による。  
2) 片持ちスラブの出が600mmを超える場合、断面および配筋は構造図による。  
3) 先端の折り曲げ長さは、スラブ厚よりかなり厚さを除いた長さとする。  
4) スラブに段差がない場合、主筋を引き通してスラブに定着してよい。



片持ちスラブ長 L≦600mm

片持ちスラブ長 L>600mm

- b) 片持ちスラブ出隅部補強

- 1) 出隅部手すり等にスリットを設けた場合のスラブ補強筋図は、下図による。  
※1. 補強筋は短辺スラブ上端筋の間に配筋する。  
※2. 手すり等のスリットの有無は、構造図による。

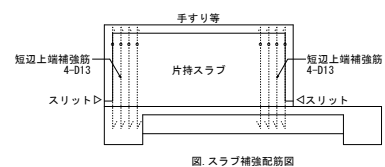


図 スラブ補強配筋図

- 2) 出隅部手すり・パラベット等にスリットを設けない場合の配筋図は、下図による。  
※1. 手すり・パラベットの横筋定着長は、壁筋と同じとする。

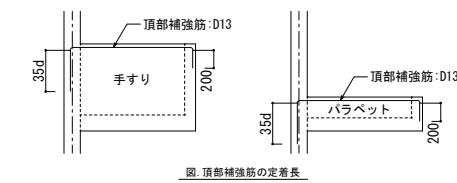
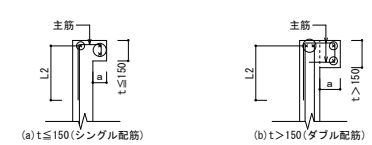


図 頂部補強筋の定着長

### 10. 手すり・パラベット等配筋

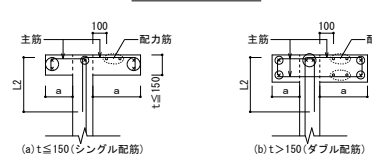
- a) パラベット・出窓等返しスラブ配筋



(a) t≦150(シングル配筋)

(b) t>150(ダブル配筋)

図 片側返しスラブ



(a) t≦150(シングル配筋)

(b) t>150(ダブル配筋)

図 両側返しスラブ

a	主筋	配筋筋
a≦0.25m	D10#150	-
0.25m<a≦0.60m	D10#150	D10#200

※ 〇：補強筋D13を示す。

### b) テスリ・パラベット等立上り壁配筋

- 1) 手すり・パラベット等の配筋図は、下図による。  
2) 手すり・パラベット高が1.5mを超える場合は、特記による。

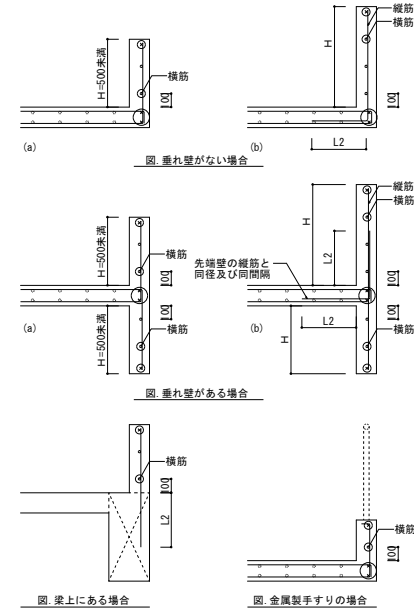


図 垂れ壁がない場合

図 垂れ壁がある場合

図 梁上にある場合

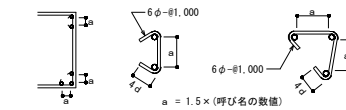
図 金属製手すりの場合

H	縦筋	横筋
H≦1.2m	D10#150	D10#150
1.2m<H≦1.5m	D10#150	D10#150

※ 〇：補強筋D13を示す。

### 11. 柱梁配筋（柱寄せ筋、ハンチ梁、梁主筋位置）

- a) 柱寄せ筋（二段筋）の保持



- b) ハンチ梁のハンチ起点のあばら筋補強

主筋	ハンチ勾配(1/n)	あばら筋補強
縦筋	1/3 1/3.5 1/4 1/4.5 1/5	①-D13 ②-D13 ③-D13
D19		
D22		
D25		
D29		
D32		

- c) 梁主筋の位置



伊良部正人、大浜雄樹、野底賢二

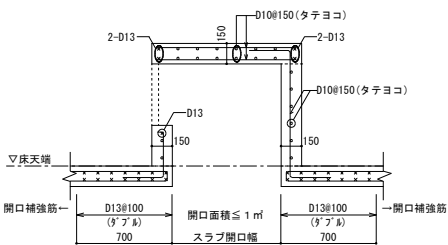
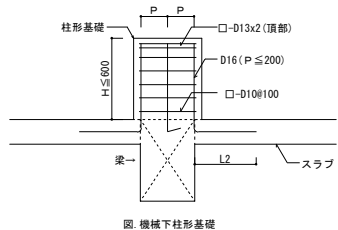
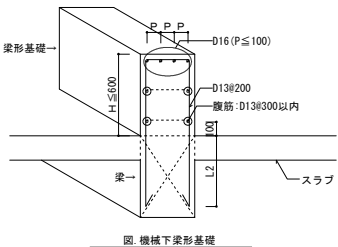
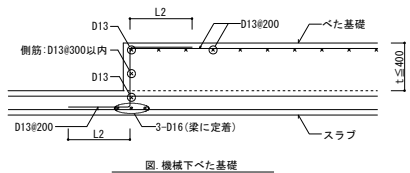
工事名称	石垣北部地区建築工事(その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原園カンニン250-7	図面名称	牛舎：雑配筋標準図(2)
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	NOSCALE
		図面番号	S-07
描 要	設 名 称 有限会社 朝吹設計事務所 資格者氏名 管理建築士 朝吹 一郎 計 登録番号 T級建築士 第 114962 号 登録番号 第 133-1792 号 書 所 在 地 沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32		

有限会社 長崎総合設計 長崎 栄一  
 一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号  
 一級建築士 第 141385号  
 構造設計一級建築士 第 9036号

雑配筋標準図（3）

1 2. 機械基礎およびハト小屋等配筋

- 1) 機舎基礎およびハト小屋等配筋図は、図4.1～図4.4による。  
2) 各部材断面が図4.1～図4.4より大きくなる場合は、特記による。

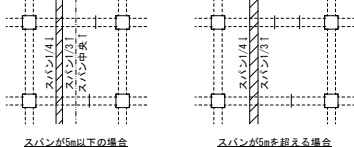


※スラブの開口補強筋要領は、S-04参照とする。  
※開口周囲は上図より鉄筋で補強し、隅角部に斜め方向に2-D13シングルの上下筋の内側に配筋する。

図. ハト小屋・トップライト等配筋図 (断面図)

1 3. コンクリート打継ぎ位置

- (a) 梁およびスラブの鉛直打継ぎ部  
・打継ぎはできるだけ少なくし、応力の小さいところで打継ぐ。  
・各部材(梁、片持ち梁、小梁、スラブ)の付け根での打継ぎは避ける。  
・スパンが5m以下の場合、スパン中央付近又はスパンの1/3～1/4のところがよい。  
・スパンが5mを超える場合、スパンの1/3～1/4のところがよい。



- (b) 柱および壁の水平打継ぎ部  
・スラブ、壁梁又は基礎の土曜に設ける。

1 4. 地業の標準

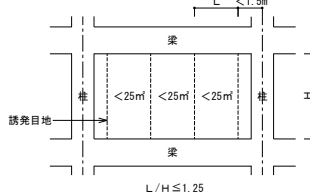
構造部位	表 地業の標準					
	地盤・地業	土質	N値	種別	厚(mm)	備考
直接基礎床版下	岩盤土丹	砂礫砂	N ≥ 10	地はだ	100	※1
			N < 10	砂利	100	
	シルト粘土ローム	砂利	N ≥ 10	砂利	60	※2
			N < 2	砂利	150	
杭基礎床版下	-	-	砂利	60	50	※3
基礎床下	-	-	砂利	60	50	
土間コンクリート下	-	-	砂利	-	-	※4
土間床版下 (構造スラブ)	-	-	砂利	60	50	
玄関ポーチ下等下	-	-	砂利	60	-	※4

※1. 地盤の状態によっては砂利地業を取り止めてもよい。  
※2. 地業の上にポリエチレンシート厚0.15を敷く。  
※3. 配筋の程度に支障が無ければ捨てコンクリートを取り止めてもよい。  
※4. 土間床版形式とする場合は、上記(土間床版下)による。

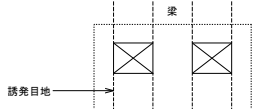
1 5. 誘発目地

コンクリートの主に乾燥収縮などによるひび割れについて、誘発目地の設置を推奨する。  
誘発目地の設置は、監督職員と協議のうえ決定することとする。

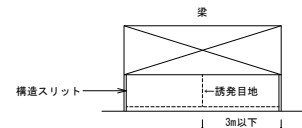
- (a) 壁  
1) 周囲を柱・梁・誘発目地で囲まれた1枚の壁の面積は25㎡以下とし、1枚の壁の面積が小さい場合を除いて、その辺長比(L/H)は1.25以下を原則とする。



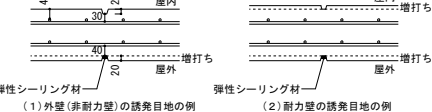
- 2) 開口部は下図のように開口端部に接するように目地を設ける。



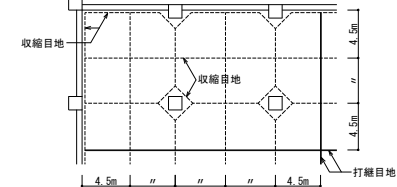
- 3) 構造スリットと誘発目地



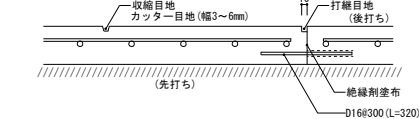
- 4) 壁の誘発目地の例



- (b) 土間コンクリート  
1) 1日の施工面積から決まる打継目地と、不規則にひび割れが生じないようにコントロールする収縮目地を適宜に設ける。

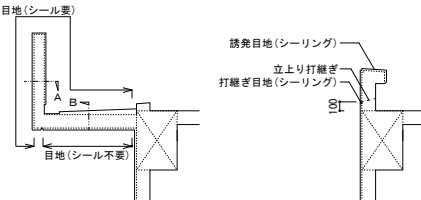


- 2) 土間コンクリートの誘発目地の例



- (c) バルコニー、外廊下、底、バラベツ等

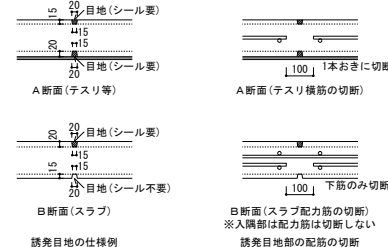
- 1) 誘発目地の設け方



- テスリ等誘発目地の設け方

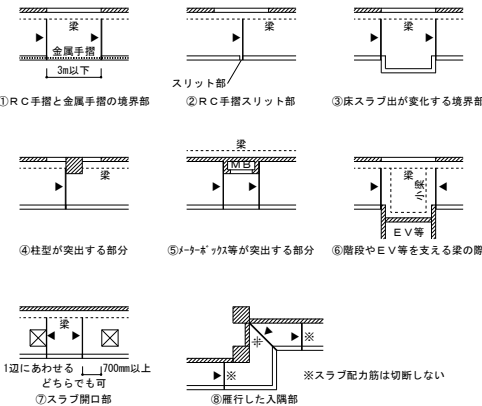
- バラベツ誘発目地の設け方

- 2) 誘発目地



- 3) 誘発目地の設置位置

- 誘発目地(▼)の設置間隔は、3m以下とする。



誘発目地の設置位置(平面図)

伊良部正人、大浜雄樹、野底賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事(その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カニンセン250-7	図面名称	牛舎：雑配筋標準図(3)
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮尺	NOSCALE
		図面番号	S-08
設	名 称	有限会社 朝吹設計事務所	
計	資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎	
書	登録番号	1級建築士 第 114962 号	
		登録番号 第 133-17392 号	
	所在地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32	

有限会社 長崎総合設計 長崎 安一  
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号  
一級建築士 第 141385号  
構造設計一級建築士 第 9036号



## ボーリング柱状図









調 査 名 石垣北部地区建築設計委託業務(野底)

[illegible]

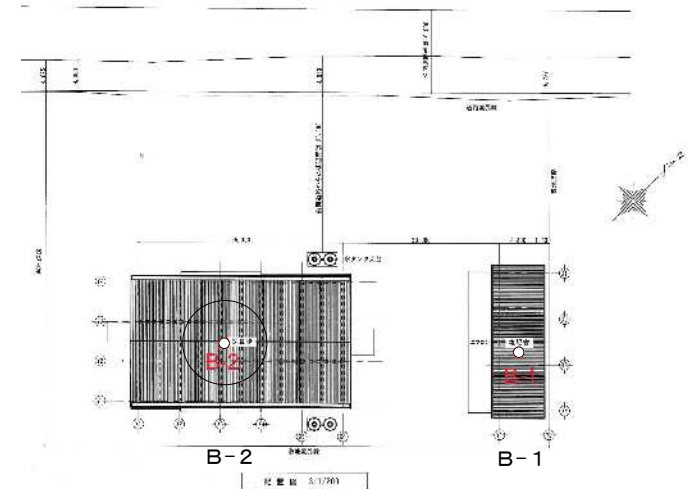
事業・工事名

シート No.

ボーリング名	B-2	調査位置	石垣市宇伊原間カンニン250-7				北緯
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社		調査期間	令和 5年 3月 27日 ~ 5年 3月 27日			東経
調査業者名	時岳土質調査 電話 (0980-82-2297)		主任技師	現代人	コニカアサヒ	浦崎 裕信	ボーリング責任者
孔口標高	角		方	北	地盤勾配	使用機種	試錐機
総掘進長	5.00m	度	向	西	東	水平 0°	エンジン
							YBM-05DA-2
							ハンマー 落下用具 ポンプ
							NS-60
							カーブ

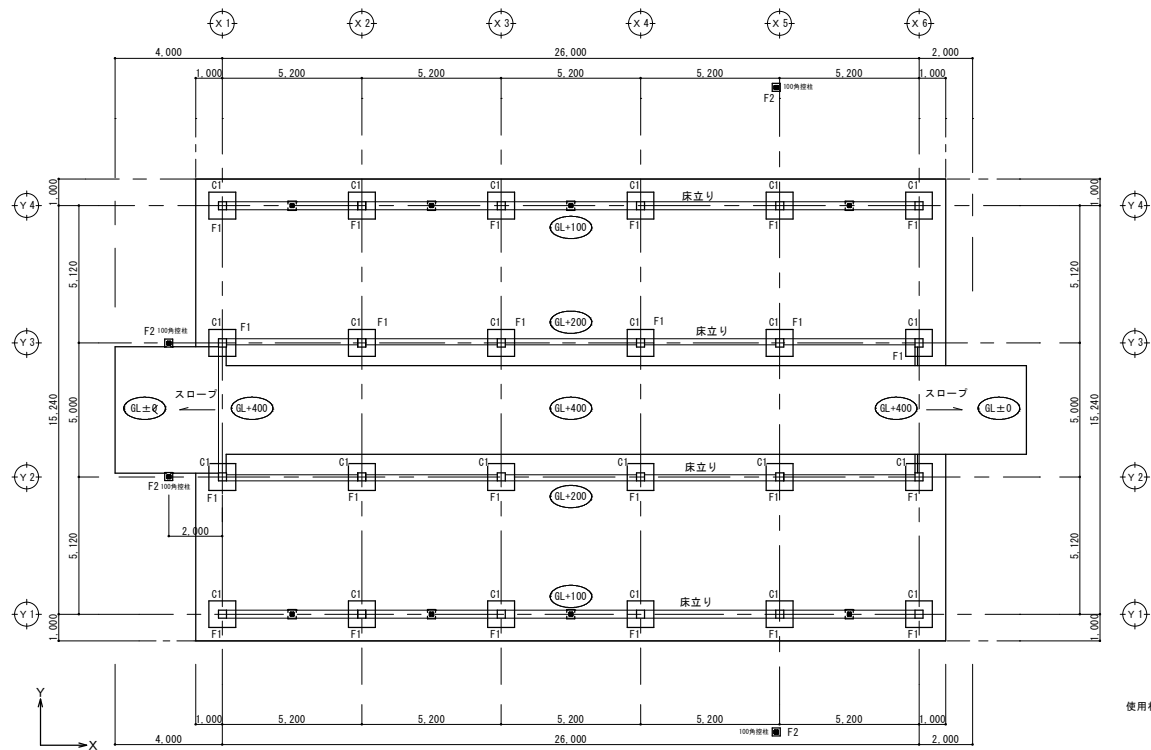
標尺	標高	属厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試験採取		室内試験
											深	10cmごとの 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	深	試験 および結果	深	試験 採取 番号	深	
(m)	(m)	(m)	(m)	図	分	調	度	度	事		0	10	20	30	(m)	▼設計GL	(m)	号	法
1					中位の ／ 素地 土	糖			中層、草根及び大根を含む粘土、 全層に4.5m以下のチャート及び 石を少量混入する。  深さ10m~2.70m間、やや軟弱で ある。		1.15	1	2	3	6 30		▽基礎底	850	
2											1.45				2 30			1,900	
3											2.15	1	1	20	2 30			2,860	
4											2.45	1	1	20	2 30				
5											2.70	1	1	20	2 30				
5											3.01	1	1	20	2 30				
5											3.20	1	1	20	2 30				
5											3.40	1	1	20	2 30				
5											3.60	1	1	20	2 30				
5											3.80	1	1	20	2 30				
5											4.00	1	1	20	2 30				
5											4.20	1	1	20	2 30				
5											4.40	1	1	20	2 30				
5											4.60	1	1	20	2 30				
5											4.80	1	1	20	2 30				
5											5.00	1	1	20	2 30				
5											5.20	1	1	20	2 30				
5											5.40	1	1	20	2 30				
5											5.60	1	1	20	2 30				
5											5.80	1	1	20	2 30				
5											6.00	1	1	20	2 30				
5											6.20	1	1	20	2 30				
5											6.40	1	1	20	2 30				
5											6.60	1	1	20	2 30				
5											6.80	1	1	20	2 30				
5											7.00	1	1	20	2 30				
5											7.20	1	1	20	2 30				
5											7.40	1	1	20	2 30				
5											7.60	1	1	20	2 30				
5											7.80	1	1	20	2 30				
5											8.00	1	1	20	2 30				
5											8.20	1	1	20	2 30				
5											8.40	1	1	20	2 30				
5											8.60	1	1	20	2 30				
5											8.80	1	1	20	2 30				
5											9.00	1	1	20	2 30				
5											9.20	1	1	20	2 30				
5											9.40	1	1	20	2 30				
5											9.60	1	1	20	2 30				
5											9.80	1	1	20	2 30				
5											10.00	1	1	20	2 30				
5											10.20	1	1	20	2 30				
5											10.40	1	1	20	2 30				
5											10.60	1	1	20	2 30				
5											10.80	1	1	20	2 30				
5											11.00	1	1	20	2 30				
5											11.20	1	1	20	2 30				
5											11.40	1	1	20	2 30				
5											11.60	1	1	20	2 30				
5											11.80	1	1	20	2 30				
5											12.00	1	1	20	2 30				
5											12.20	1	1	20	2 30				
5											12.40	1	1	20	2 30				
5											12.60	1	1	20	2 30				
5											12.80	1	1	20	2 30				
5											13.00	1	1	20	2 30				
5											13.20	1	1	20	2 30				
5											13.40	1	1	20	2 30				
5											13.60	1	1	20	2 30				
5											13.80	1	1	20	2 30				
5											14.00	1	1	20	2 30				
5											14.20	1	1	20	2 30				
5											14.40	1	1	20	2 30				
5											14.60	1	1	20	2 30				
5											14.80	1	1	20	2 30				
5											15.00	1	1	20	2 30				
5											15.20	1	1	20	2 30				
5											15.40	1	1	20	2 30				
5											15.60	1	1	20	2 30				
5											15.80	1	1	20	2 30				
5											16.00	1	1	20	2 30				
5											16.20	1	1	20	2 30				
5											16.40	1	1	20	2 30				
5											16.60	1	1	20	2 30				
5											16.80	1	1	20	2 30				
5											17.00	1	1	20	2 30				
5											17.20	1	1	20	2 30				
5											17.40	1	1	20	2 30				
5											17.60	1	1	20	2 30				
5											17.80	1	1	20	2 30				
5											18.00	1	1	20	2 30				
5											18.20	1	1	20	2 30				
5											18.40	1	1	20	2 30				
5											18.60	1	1	20	2 30				
5											18.80	1	1	20	2 30				
5											19.00	1	1	20	2 30				
5											19.20	1	1	20	2 30				
5											19.40	1	1	20	2 30				
5											19.60	1	1	20	2 30				
5											19.80	1	1	20	2 30				
5											20.00	1	1	20	2 30				
5											20.20	1	1	20	2 30				
5											20.40	1	1	20	2 30				
5											20.60	1	1	20	2 30				
5											20.80	1	1	20	2 30				
5											21.00	1	1	20	2 30				
5											21.20	1	1	20	2 30				
5											21.40	1	1	20	2 30				
5											21.60	1	1	20	2 30				
5											21.80	1	1	20	2 30				
5											22.00	1	1	20	2 30				
5											22.20	1	1	20	2 30				
5											22.40	1	1	20	2 30				
5											22.60	1	1	20	2 30				
5											22.80	1	1	20	2 30				
5											23.00	1	1	20	2 30				
5											23.20	1	1	20	2 30				
5											23.40	1	1	20	2 30				
5											23.60	1	1	20	2 30				
5											23.80	1	1	20	2 30				
5											24.00	1	1	20	2 3				

調査位置図



伊良部 正人、大浜 雄樹、野底 賢二

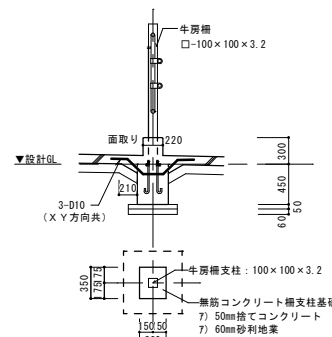
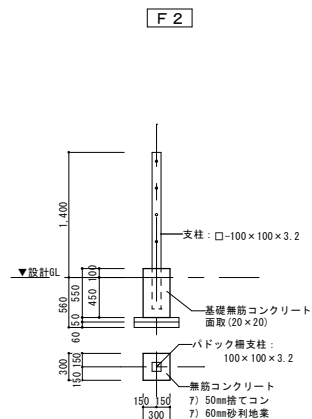
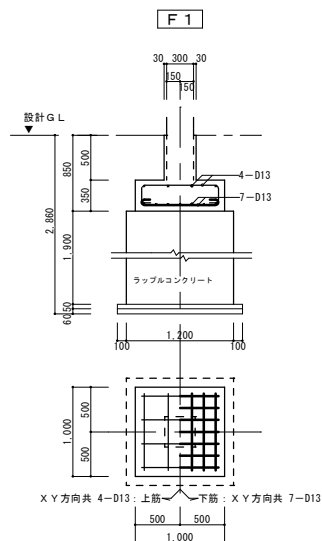
工事名称	石垣北部地区建築工事（その５）	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カニン250-7	図面名称	牛1：柱状図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	A1: - A3: -
		図面番号	S—009
摘 要		設 計 者	図 名 称 有 限 公 司 朝 欣 設 計 事 務 所 資格者氏名 管理建築士 朝欣 一郎 登録番号 第114652号 登録番号 第133-1792号 所 在 地 沖縄県石垣市浜崎町2丁目番地32



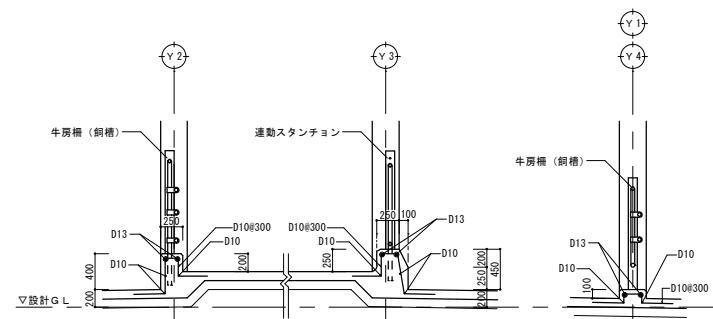
基礎伏図 S=1/100

使用材料  
土間コンクリート・配筋  
・厚100mm土間コンクリート  
・厚100mmクラッシュラン  
・溶接金網 6×150×150

基礎詳細図 S=1/30



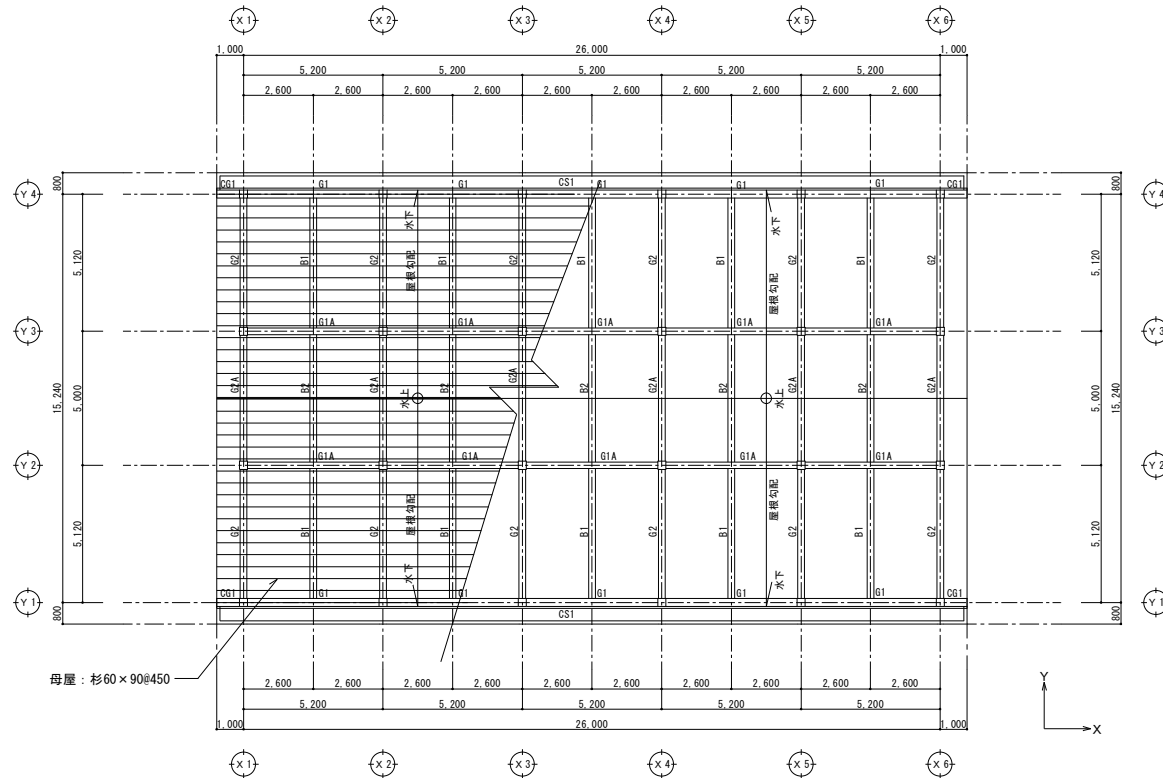
牛房欄支柱詳細図 S=1/30



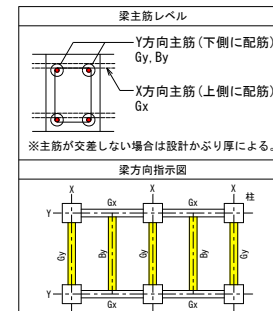
欄立上り詳細図 S=1/30

伊良部 正人、大浜 雄樹、野底 賢二

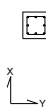
工事名称	石垣北部地区建築工事 (その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	牛舎: 基礎伏図・基礎詳細図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	A1: 1/30・100 A3: 1/60・200
構 要		図面番号	S-10
設 計		名 称	有限会社 朝吹設計事務所
者		資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
		登録番号	1級建築士 第 114962 号 登録番号 第 133-1792 号
		所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32

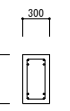
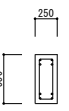




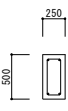

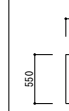
R 階 梁 伏 図 S=1/100



スラブリスト				
※ 特記の無い限り短辺方向を主筋とする。				
符号	床 厚	位 置	短 辺 方 向	長 辺 方 向
CS1	130	上 端 筋 下 端 筋	D13φ200 D10φ200	D10φ200 D10φ200
				片持ちスラブ

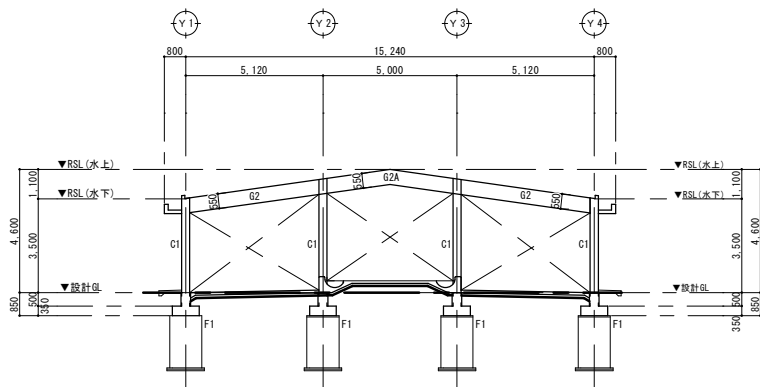
柱リスト 1/30			
符 号	C1		
断 面	全 断 面		
			
X × Y	300 × 300		
主 筋	8-D16		
フ ー プ	□-D10 @100		

R階梁リスト 1/30				
符 号	G 1	G 1 A	G 2	G 2 A
位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面
断 面				
	300	250	250	250
B × D	300 × 550	250 × 550	250 × 550	250 × 550
上 端 筋	1 段 筋 2-D16	2-D16	3-D16	2-D16
	2 段 筋 2-D16	2-D16		
下 端 筋	1 段 筋 2-D16	2-D16	3-D16	2-D16
	2 段 筋 2-D16	2-D16		
ス タ ー ラ ッ プ	D10-@200	D10-@200	D10-@200	D10-@200
腹 筋	—	—	—	—
幅 止 筋	—	—	—	—

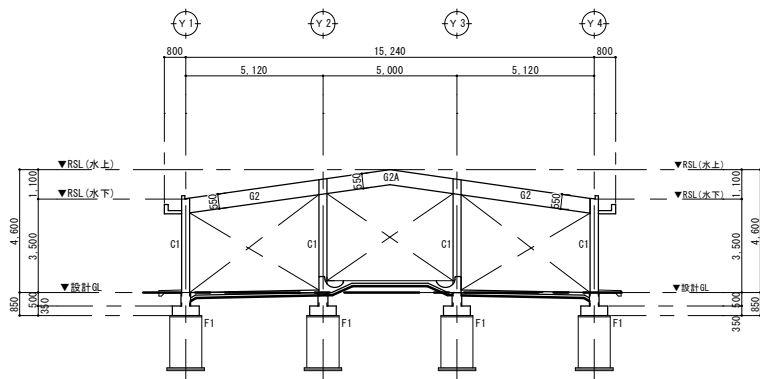
R階小梁・片持梁リスト 1/30			
符 号	B 1	B 2	CG 1
位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面
断 面			
	250	250	300
B × D	250 × 500	250 × 500	300 × 550
上 端 筋	1 段 筋 2-D16	2-D16	2-D16
	2 段 筋		
下 端 筋	1 段 筋 2-D16	2-D16	2-D16
	2 段 筋		
ス タ ー ラ ッ プ	D10-@200	D10-@200	D10-@200
腹 筋	—	—	—
幅 止 筋	—	—	—

伊良部 正人、大浜 雄樹、野底 賢二

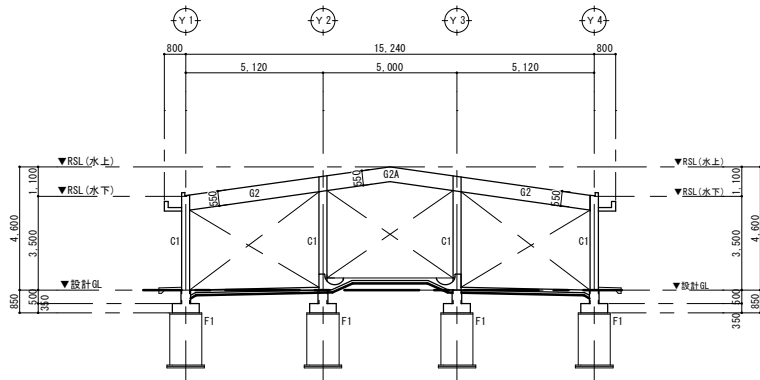
工事名称	石垣北部地区建築工事（その5）	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	牛舎：R階梁伏図・各リスト図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	A1:1/30・100 A3:1/60・200
構 要		図面番号	S-11
		名 称	有限会社 朝吹設計事務所
		資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
		登録番号	1級建築士 第 114962 号 登録番号 第 135-1792 号
所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32		



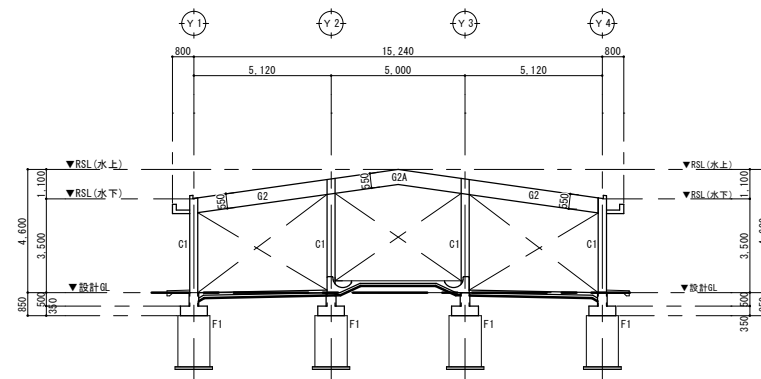
X 1 通り軸組図 S = 1 / 100



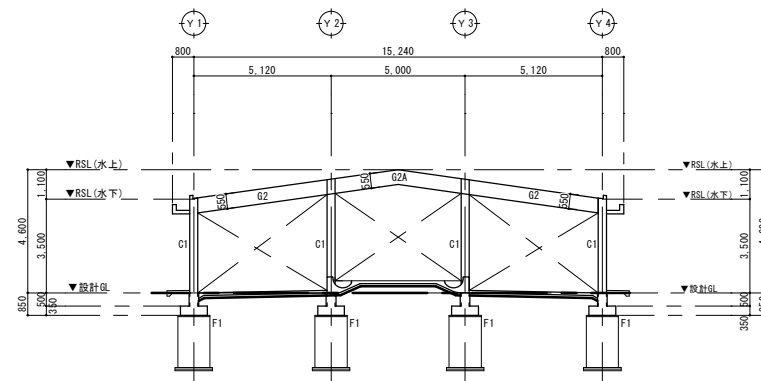
X 3 通り軸組図 S = 1 / 100



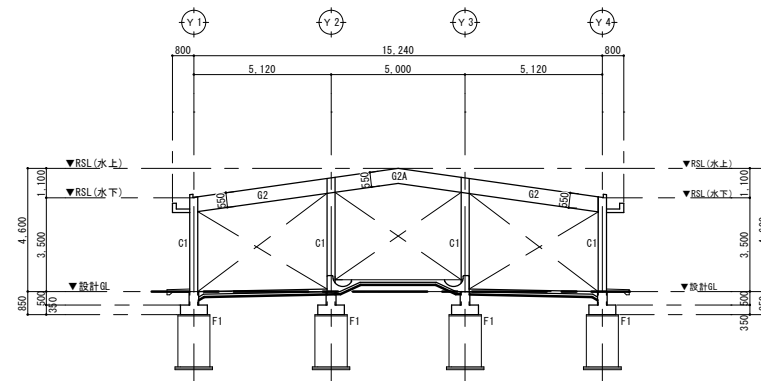
X 5 通り軸組図 S = 1 / 100



X 2 通り軸組図 S = 1 / 100



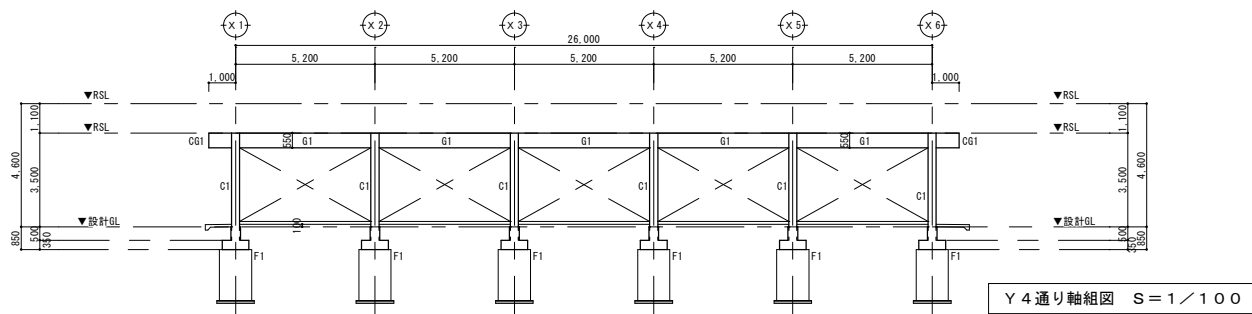
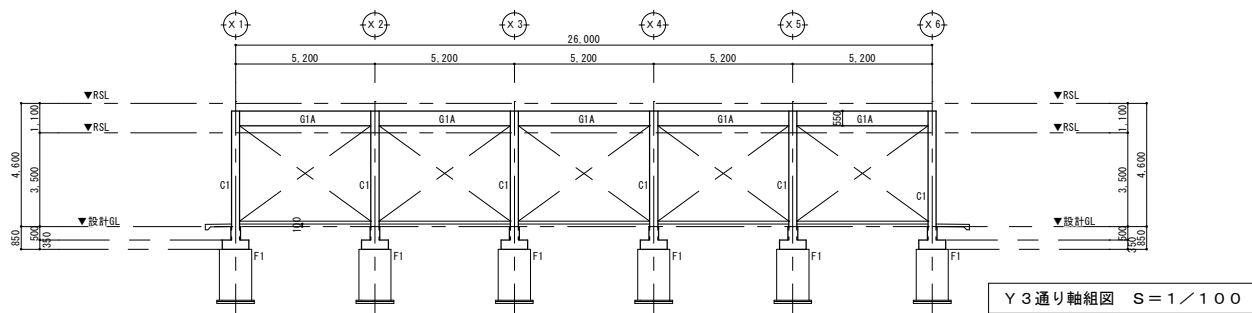
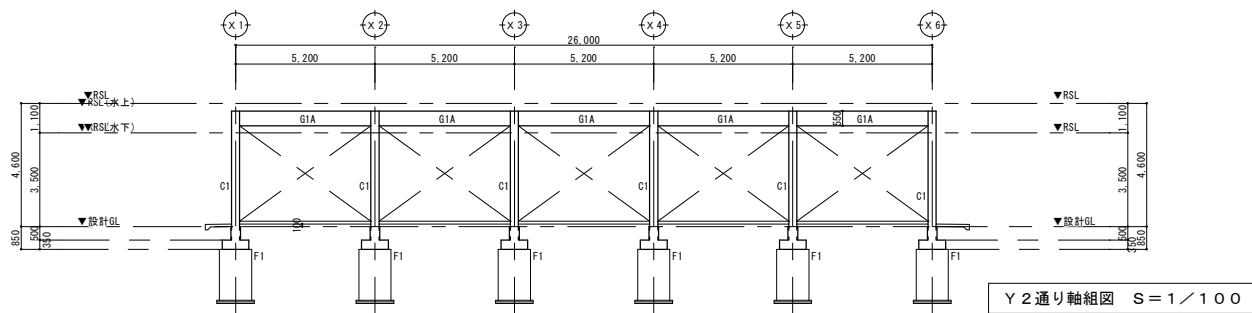
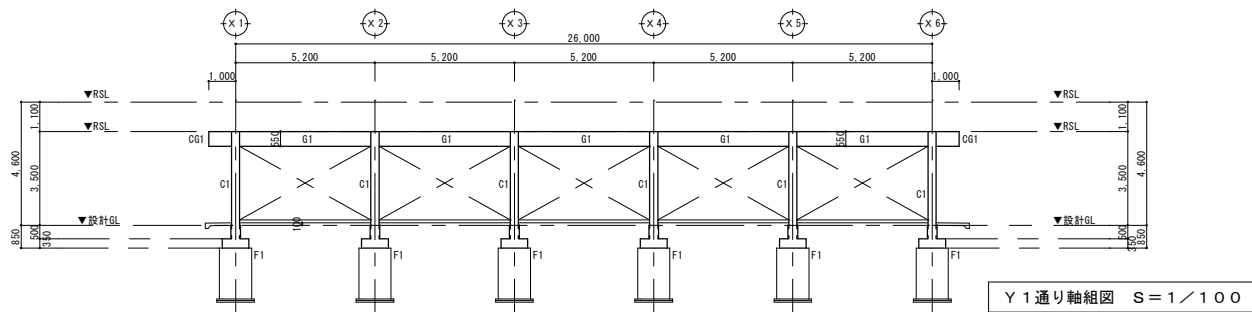
X 4 通り軸組図 S = 1 / 100



X 6 通り軸組図 S = 1 / 100

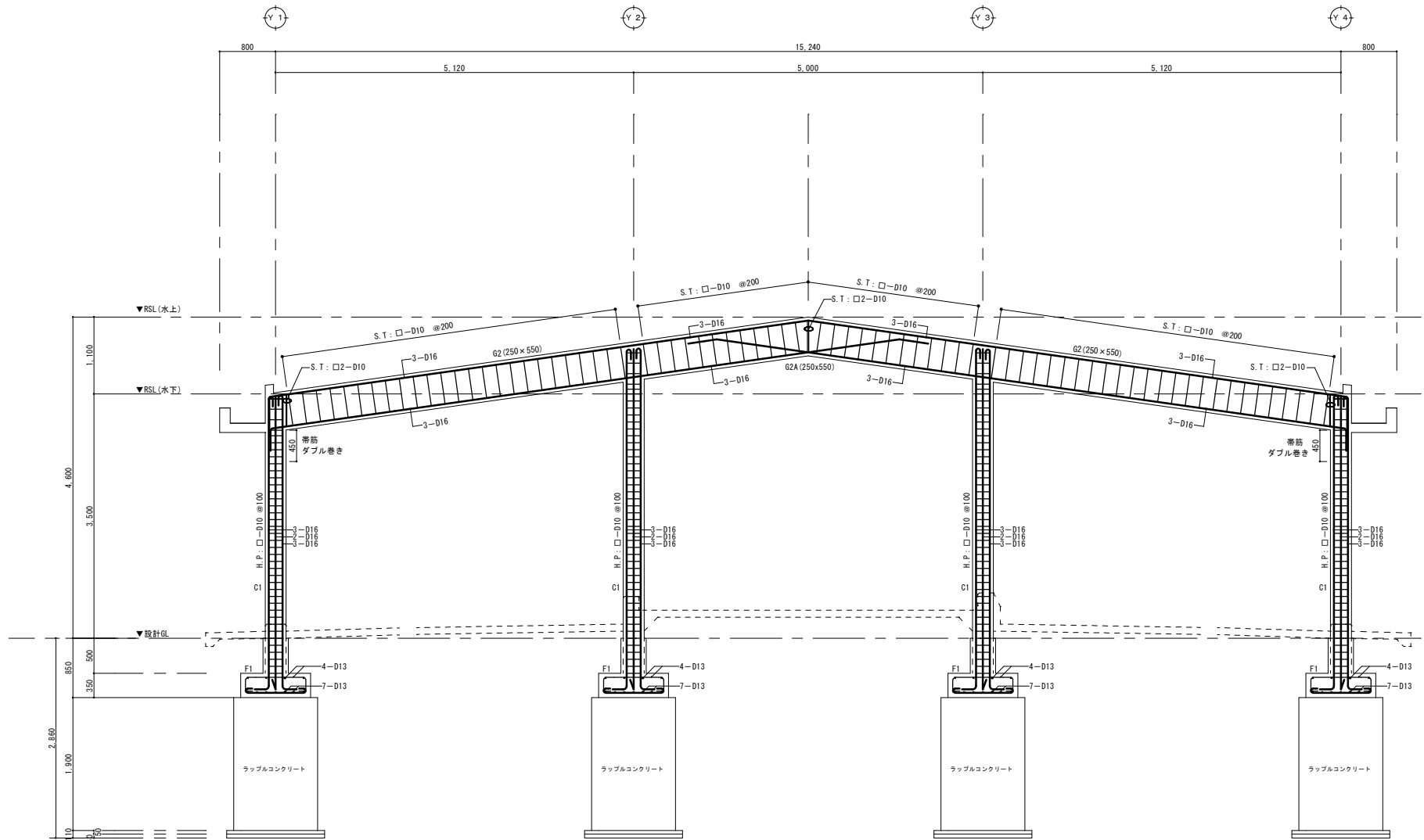
伊良部 正人、大浜 雄樹、野底 賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事（その5）	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	牛舎・軸組図（1）
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	A1: 1/100 A3: 1/200
構 要		図面番号	A—12
設 名 称	有限会社 朝吹設計事務所	資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
計 資 格 者 氏 名	1級建築士 第 114962 号	登録番号	登録番号 第 135-1792 号
者 所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32		



伊良部 正人、大浜 雄樹、野底 賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事（その5）	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	牛舎・軸組図（2）
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	A1: 1/100 A3: 1/200
構 要		図面番号	S-13
設 計 者	名 称 有限会社 朝吹設計事務所 資格者氏名 管理建築士 朝吹 一郎 登録番号 1級建築士 第 114962 号 登録番号 第 133-1792 号 所 在 地 沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32		



X3 通りラーメン図 S = 1 / 3 0

伊良部 正人、大浜 雄樹、野底 賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事（その5）	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	牛舎：架構詳細図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	A1: 1/30 A3: 1/60
構 要		図面番号	S - 14
設 名 称	有限会社 朝吹設計事務所	資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
計 登 録 番 号	1級建築士 第 114962 号	登録番号	第 133-1792 号
表 所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32		